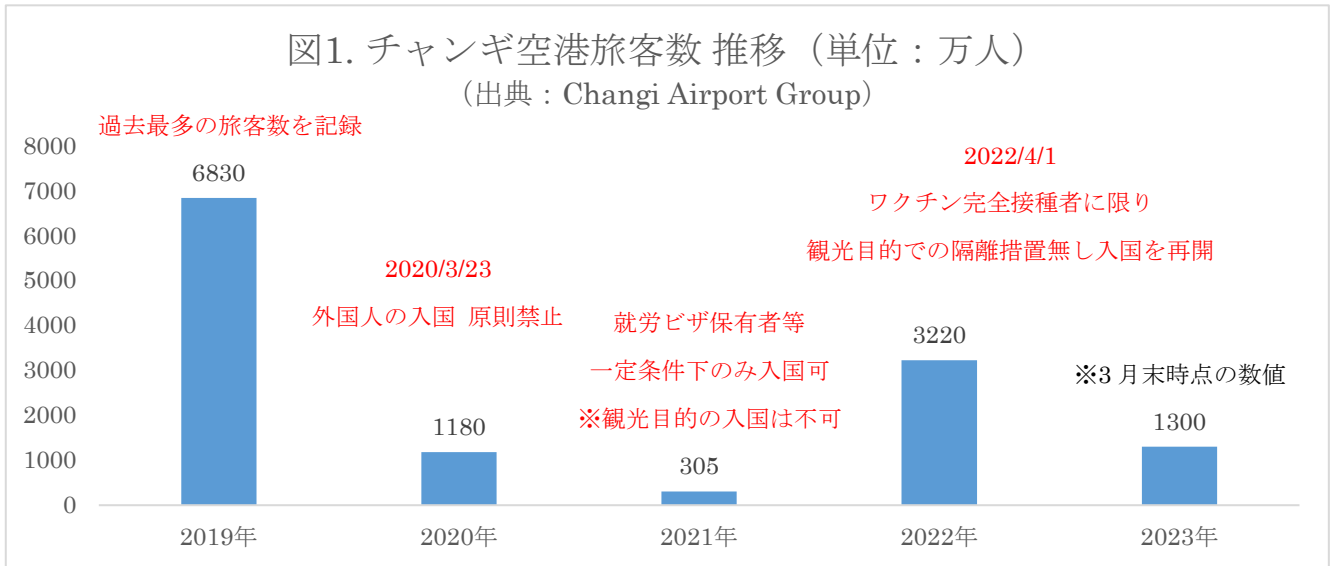


（件名）コロナ関連規制の大幅緩和から1年経過したシンガポールの現状について

シンガポール政府は、2022年4月に新型コロナウイルス関連規制を大幅に緩和し、同ウイルス流行前の生活に戻りました。今回は、大幅な規制緩和から1年経過した現在のシンガポールの現状についてお知らせいたします。

■チャンギ空港 旅客数の推移について



2019年には、過去最多となる6,830万人の旅客数を記録したチャンギ空港ですが、2020年3月から実施された外国人の入国禁止措置を受け、2021年には305万人という数字まで落ち込みました。

2022年4月には、ワクチン完全接種者に限り隔離措置無しでの観光目的での入国が再開され、通常どおりの渡航が可能となりました。2022年4月以降、ASEAN各国を中心に旅客数が回復し、2022年の国際線旅客数ランキングでは、世界9位となりました（参考：1位 ドバイ国際空港 6,610万人）。

今年は3か月で約1,300万人が利用するなど、前年を上回るペースで旅客数が回復しております。



写真1：2022年9月 昼のチャンギ空港
（筆者撮影）



写真2：2023年5月 深夜のチャンギ空港
（筆者撮影）

上記写真1、2の通り、時間帯を問わず多くの旅客がチャンギ空港を利用していることが分かります。チャンギ空港では、運用が停止されていた2つのターミナル運用を再開したほか、スマートフォンのアプリ上で確認できる「受託手荷物追跡サービス（サービス利用には諸条件あり）」を導入するなど、日々増加する旅客への対応を行っています。



報告者 副所長 本間 純太（北洋銀行からの派遣）

■大規模イベントの再開

渡航制限の解除と同時期である 2022 年 4 月に、大規模イベントに関する制限も解除されました。（※大規模イベントに関する制限：参加者 1,000 人以上のイベントの実施については、参加者の上限を施設収容能力の 75%まで限定されていました。）

制限解除を受け、2022 年 5 月以降、シンガポール各所で大規模イベントが続々と再開され、人々が一堂に会する機会が大幅に増えました。中でも筆者が特に印象に残っているイベントの様子についてご紹介します。

(1) NATAS Travel Fair 2022（シンガポール最大の旅行博、2022 年 8 月開催）

40 を超える企業・団体が出展し、3 日間で約 6 万人が来場しました。

新型コロナウイルス流行前である 2019 年には約 12 万人が来場していたという報告もあり、結果的には同ウイルス流行前から来場者は半減したものの、同ウイルス流行以降初の大規模イベントへの参加となり、非常に感慨深い気持ちになったのを鮮明に覚えています。

NATAS Fair で訪日団体旅行商品を購入したシンガポール在住者の 7 割以上は、4,001 シンガポール・ドル（当時のレートで約 40 万円）以上の高額パッケージを購入するなど、消費者にとっても待望のイベントだったと思われます。



写真 3：入場を待つ来場者の行列
（筆者撮影）



写真 4：平日でも混雑する会場の様子
（筆者撮影）

(2) F1 シンガポール GP

新型コロナウイルスの影響で、2020 年、2021 年については開催が中止となっていた F1 シンガポール GP が、約 3 年ぶりに開催されました。（2022 年 9 月 30 日～10 月 2 日）主催者の発表によると、3 日間で過去最多となる 30.2 万人が来場し、F1 期間の宿泊費の平均値は、こちらも過去最高額となる 440 シンガポール・ドル（約 4.4 万円）まで上昇するなど、世界各地から多くの人々が訪れたイベントであることが分かります。



写真 5,6：
F1 GP の会場の様子
（筆者知人撮影）

報告者 副所長 本間 絢太（北洋銀行からの派遣）

■所見

本レポート及び過去レポートでお伝えした通り、2022年4月以降、シンガポールでは新型コロナウイルスに関連する各種規制の大半が撤廃され、コロナ前の日常に戻った1年でした。加えて、公共交通機関内でのマスク着用義務が、2023年2月に撤廃されたこともあり、今年は益々コロナ前の生活に戻る年だと確信しております。

当事務所としても、昨年度様々なイベントや取組を行ってまいりましたが、今年度は昨年度の取組実績を踏まえ、より効果的なイベントや取組を実施し、北海道へのインバウンド増加、道産品の販路拡大を引き続き目指してまいります。ASEAN 各国にご関心のある方・企業様は、是非当事務所をご活用ください。